

# 市民記者のページ



むとう くにてる  
武藤 州輝 さん (小川)

今年の下館盆踊りには、孫と参加し八十を偲んでみたいと思います。みなさまも是非、ご参加いただければと思います。

「八十」という名前は、両親が苦しい事がないようにと願い、八・九・十から九(苦)を抜き命名されたそうです。

## 日本を代表する作詞家・西條八十

筑西市と板谷波山先生、森田茂先生、大西勲先生など、著名な芸術家との関わりはよく知られています。しかし、『青山脈』、『蘇州夜曲』、『王将』などのヒット曲を作詞した西條八十と下館の関わりを知る人は少ないのではないのでしょうか。筑西市の芸術・文化を、後世に残そうと活動している「下館・時の会」の一本努会長に西條八十の話をつかいました。

## 芸術・文化のまち、下館

# 西條八十と『下館音頭』

### 八十が愛した芸術・文化のまちを後世に伝えたい

### ▼西條八十



八十は早稲田大学を卒業後、詩集『砂金』を自費出版し、作詞家としてデビューしました。抒情詩、童謡、歌謡曲などの幅広いジャンルを手がけ、日本を代表する作詞家として活躍し、日本芸術院会員でもありました。

## 下館への疎開と『下館音頭』

昭和18年、八十は大学時代の同級生で当時の下館町長・外池格次郎氏の厚意により、下館中心部に建つ間々田元吉氏所有の離れ(現存に疎開しました。実はそれ以前に八十は、下館商業学校(現下館一高)の校歌を作詞しています。住まいの下見のため宿泊した旅館の前で学生たちが「筑波の西に緑野あり…」と歌う校歌が、自分で作詞したものだと気づき、自身と下館との関わりに不思議な縁を感じたそうです。「八十はよく下館の街を散歩していました。まちの人たちとのふれあいや、

### ▼下館音頭歌碑



外池町長と毎日酒を酌み交わす時間がとても楽しかったそうです。また、ガラス商の老田繁蔵さんなど地元の人に何げない『もてなし』を受けたことで、下館を大変気に入っていたようですという一本会長。戦後、下館町からの依頼で、町内の坂や勤行川などまちの特徴を織り込んで作詞したのが『下館音頭』です。その中に「おらが下館の思ひを感じ取れます。

## 芸術・文化を後世に伝えたい

八十の作詞した下館音頭は、毎年開催される下館盆踊り大会で歌い継がれています。また、下館音頭歌碑がアルテリオの西側、羽黒神社の児童公園に建っています。このような文化、芸術、郷土史などをどのように残していくのかを、みんな考えてあげなければならないのではないのでしょうか。



▲下館盆踊り大会



▶▶ 大学生お帰りなさいキャンペーン始めます!

普通車 AT **263,825円**(税込み 284,931円)

夏休みスピードコースも開始します!  
詳しくは窓口までお問い合わせ下さい。

無料 個別送迎 託児室完備



茨城県西自動車学校 | 上筑波自動車学校  
TEL:0296-37-6012(代) | TEL:029-869-0931(代)

指定自動車教習所 <http://www.kenseijikou.co.jp/>

